

訪問国活動



訪問国では、歓迎レセプションや課題別視察が行われ、参加青年一人ひとりが親善大使としての役割を担っています。現地青年との交流やホームステイを通して、その国の文化や制度への理解を深めます。人を知り、国を知るのです。

歓迎レセプション ～訪問国のホスピタリティを感じる～

訪問国では大臣など各国の要人にお会いする機会や伝統文化の盛大なパフォーマンスなど、おもてなしの心を感じました。この事業だからこそお会いできた方が多数おり、事業の規模の大きさ、代表青年としての誇らしさを改めて感じました。



3分間のパフォーマンスを披露@ベトナム



おもてなし料理@ベトナム



伝統文化パフォーマンス@シンガポール



駐シンガポール日本国特命全権大使と懇談@シンガポール



記念品交換@ミャンマー



各国の代表者による歌のパフォーマンス@ミャンマー



サイド・サディク青年スポーツ大臣による挨拶@マレーシア



着物での集合写真@マレーシア

ディスカッション活動において、各国代表者に直接お話を伺ったことや、青年間で共有した決意表明が印象に残っています。参加青年の情熱や希望を追い求める生き方、そして国際関係の最前線で働く姿に魅了され、自身のキャリアを考え直すきっかけとなりました。

#中村野々花 #ソフト・パワーと青年の外交 #キャリア



課題別視察および現地青年との交流

～訪問国で各課題に対する考えや対策を学ぶ～

DGまたはSGに分かれ、グループごとに施設などを訪問します。政府機関や企業、大学などを訪問することで現地の社会や人々について学びを深めると共に、現地青年との交流等を通して、共通の課題を認識し、課題解決に対し、どのように青年として貢献できるのかを考えました。



University of Medicine Pham Ngoc Thachにて
青年の健康について現地大学生と交流@ベトナム



Ho Chi Minh City Newspaper Centerにて
メディアについて学ぶ@ベトナム



Singapore Maritime Galleryにて
シンガポールの海運について学ぶ@シンガポール



ASEにて起業について学ぶ@シンガポール



University of Information Technologyにて
現地大学生と交流@ミャンマー



University of Yangon 訪問@ミャンマー



EPIC Homesにて伝統文化を学ぶ@マレーシア



Forest Research Institute Malaysiaにて先
住民の歴史・文化を学ぶ@マレーシア

それぞれの国が抱えている問題について意見交換したことで、今まで興味が無かった分野に対して興味を持つようになりました。また、その分野の視点からもそれらの問題に対して考えられるようになり、新たな解決方法を知ることにも繋がりました。

張替千滉 # きっかけ # 多角的視点

ホームステイ ～現地の生活を体験し、異文化への理解を深める～

参加青年は日本を含む全訪問国で、2泊3日ホームステイをします。異なる国の参加青年が通常2～3人1組となって現地の家庭に滞在しました。現地の人々と暮らしを共にし、同じ時間を過ごすことで、本当の家族のように受け入れてもらいました。



一緒に食卓を囲む@ベトナム



ホストファミリーとカサづくり@ベトナム



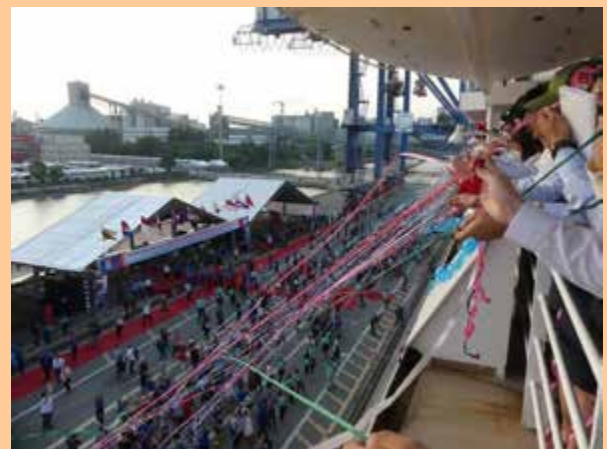
ホストファミリーへ日本の魅力を紹介@シンガポール



伝統衣装を通して現地の文化を体験@ミャンマー



朝食づくりに挑戦@マレーシア



出港時はテープを投げて別れを告げる

シンガポールのホームステイでは、食や言語を通じて、マレーシアや中国など多様な国の文化を体験しました。そうした環境の中で多文化共生を肌で学ぶことができました。そこでの学びを日本において還元していきたいです。

束元奈々 #シンガポール #多文化共生



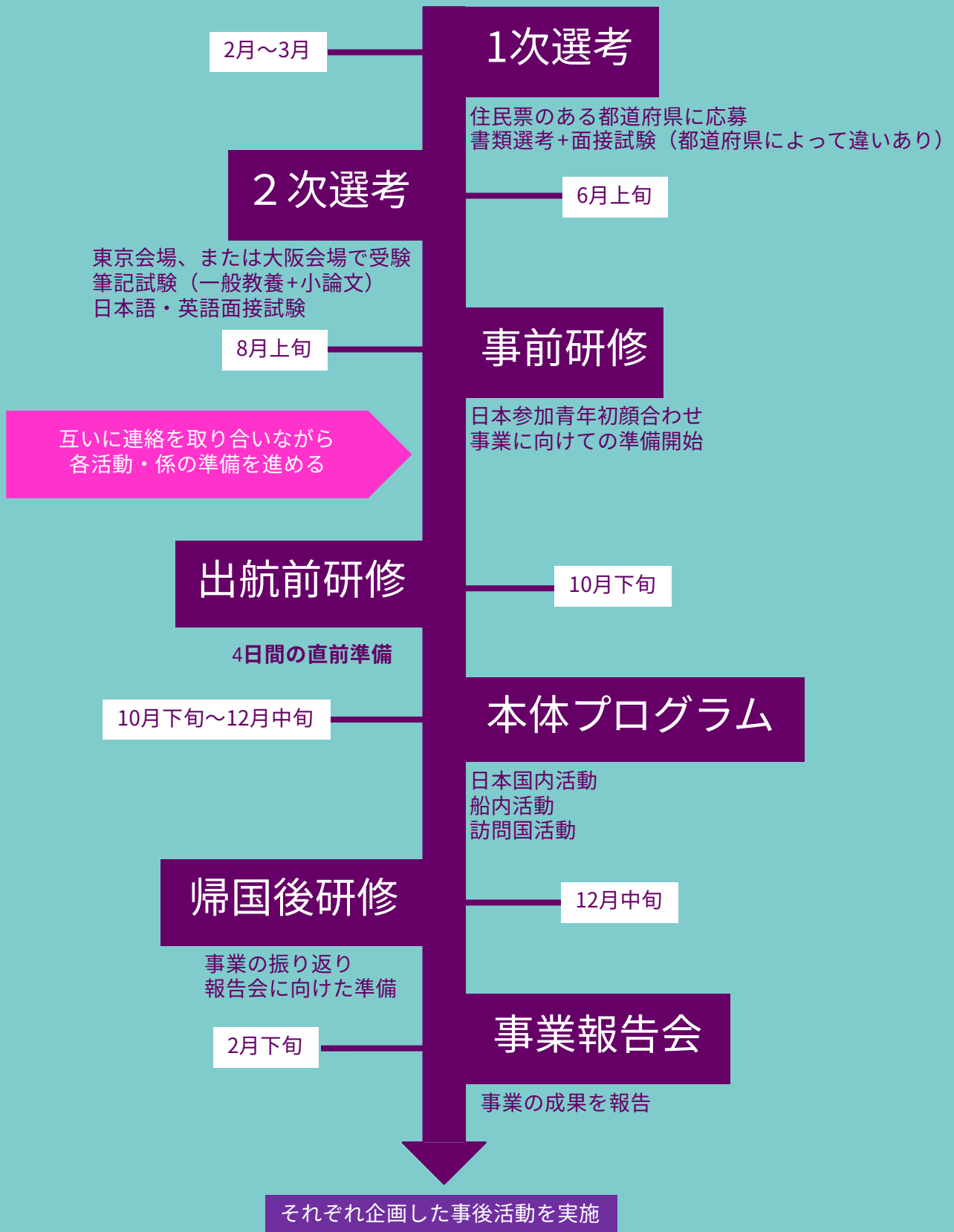
事業参加にあたって



「東南アジア青年の船」事業にどのように応募し、乗船に向けどのような準備をするのか、そして、事業終了後にはどのような活動を行うのかについて紹介します。

応募→乗船→事後活動の流れ

本事業において、日本参加青年が外国参加青年と共に活動する本体プログラムは2カ月弱ですが、その前後にも研修や準備期間、事後活動などが行われます。ここでは、応募から乗船、事後活動に至るまでの一連の流れを紹介します。



常に生活を共にする青年たちとの交流を通して、どの国から来たといったことは関係なく1人の「人」として青年と向き合える自分を見つけました。そして以前よりも世界が近く感じました。これからは国境を越えて世界中の人のために仕事をしていきたいと感じています。

#羽太里佳 #海外青年との絆#世界で働く



日本参加青年の声

日本参加青年は年齢も出身も専攻もさまざま。私たちは何を見て、何を学び、どのような未来を創っていくのか、参加者の想いを紹介します。

全くの異文化において、どのようにして人と人、国と国とが協力し合えるのか。

国際協力と東南アジアに関心があり、今まで技術や理論面から協力について模索してきた私にとって、本事業への挑戦は絶好の機会でした。国際交流や異文化理解というと、どこか自分とは異質な存在という先入観を持って接しがちです。しかし、長期間の共同生活や、寄港地でのホームステイを通して、宗教や文化の理解はもちろん、国の枠組みにとらわれすぎず、個人を尊重する大切さ、1対1のミクロな関係づくりがより大事だと確信することができました。

東南アジア中に友情を築いた経験は、一生ものの宝です。本事業の経験を通じ、「協力を世界の常識にする」という自身の夢を、今後必ず実現したいです。



早稲田大学
政治経済学部
松原健太郎

「人を通して国を知る」。それがこの事業の1番の魅力だと私は思います。旅行で訪れたことのある国でも、その国の人々と実際に触れ、密に話す中で新たな気づきを得られます。ASEAN加盟国から集まった優秀な青年たちとの生活の中で、今までずっと疑問を抱いていた自身のリーダーとしての在り方に対しても概念が大きく変わり、自分の視野、発想が広がる多くの経験をすることができました。

外国参加青年たちと心からつながることができたあの感動が忘れられず、将来は、東南アジアの国々ともっと関われる活動も選択肢に入れて社会に貢献していきたいです。

新潟大学
人文学部人文学科
西洋言語文化プログラム専攻
清村紗希



東京外国語大学
国際社会学部
東南アジア第一地域
インドネシア語専攻
三田大誠



私は大学でインドネシア語、東南アジア地域を専攻してから、日本にとっても近いにもかかわらず、それまで知らずにいた東南アジア地域に対する興味が湧いていきました。この経験を活かせることはあるのだろうか、そう考えていた時に出会ったのがこのプログラムでした。

外国参加青年は身の回りの環境から国全体に及ぶ問題を、他人任せでなく、自分に何が出来るかという視点で考えており、そんな人々が身近にいる、とても刺激的な環境に身を置くことが出来ました。そしてその全員が、今や素敵な仲間たちとなっています。自分を発信するスキル、そしてみんながいるという心強さとともに社会をより良くするための青年なりの答えを見つけていきたいと思います。

私がSSEAYPに参加したきっかけは、自分の知見をもっと広げたいと考えたことです。私は元々日中韓の法律政治の専攻で、東南アジアの知識が全くありませんでした。そこで同じアジアの中でもっと視野を広げたいと思い、本事業に参加しました。

事業では、今まで日中韓の類似点にばかり着目していた分、ASEAN文化の多様性に驚きの連続で、自分の狭い世界が一気に広がる感覚を味わいました。これから社会人となり旅行業に携わる上で、自らが経験した世界が広がる体験を、旅を通して伝えることに貢献したいです。



名古屋大学
法学部法律政治学科
内藤環

日本がいかに恵まれた国かを実感させる他国の現状、学び続けることの意義を再考させてくれた人々。本事業で見た光景から、自身が学び続け、仕事で活かし、より豊かな日本を創りたいという思いを強くしました。

#田上紘之 #学び続ける #日本





日本の食文化セミナーを担当する中で、改めて日本を誇らしく思いました。そして、私自身が自国の文化をたくさんの人に広め、興味を持ってもらうことに喜びを感じていると気づきました。これからは、日本文化をさらに世界へと発信していきたいです。

加賀紳之助 # PYセミナー # 日本の文化

仕事で国際交渉を担当していた際、現地で活躍する日本人の姿に刺激を受け、自分もグローバルに活躍できるようになりたいと思い本事業に応募しました。職場や上司を説得し、休暇を取って参加しました。

外国参加青年は社会人経験者も多く、これまでの経験や悩みを共有して励まし合ったり、アドバイスし合ったり、多様なキャリアや人生を歩む彼らから多くのことを学びました。優秀で向上心を持ち行動し続ける彼らに刺激を受け、自分の将来を考え直すきっかけにもなりました。

現在は、日本のインフラ技術の海外展開業務を担当していますが、相手国のニーズに即した提案が求められる中で、船内や現地で過ごした経験が役立っていると感じます。貴重な機会をいただいたことに感謝し、今後は業務を通してだけでなく、個人の関心分野である社会課題解決にも取り組み、広く社会に貢献していきたいです。

独立行政法人勤務
小林真未



税関には政府開発援助の一環として、開発途上国の税関を対象とする関税技術協力というものがあります。私は、将来の関税技術協力事業を担う若手職員として、本事業に職務として参加しました。船内では税関セミナーを催し、税関業務の認知度の低さを知りました。そこで、国によって税関が担う役割は違うことを伝えたり、蔓延する不正薬物、社会悪物品について意見を交わしたりと有意義な時間を過ごしました。

この経験で税関が社会へ果たす役割を伝えていく大切さを再確認したとともに、安心安全な未来に向けて世界的な税関業務の質の底上げに向け邁進していきたいと強く感じました。

財務省東京税関
小路夏未



私は学生時代から東南アジアに興味があり、ベトナムへの留学も経験しています。大学を卒業し、社会人になってからも、東南アジアへの想いは強まるばかりでした。

本事業への参加は、10のASEAN加盟国全てから青年が参加するため、青年間でのネットワークを広げ、各国の文化や歴史、生活についてさらに見識を深められる、と思ったことから決めました。

そして下船後の現在は、ベトナムのホーチミン市にある企業で日本人、ベトナム人、その他多くの国の人々に囲まれて働いています。事業で学んだことを活かし、異なる意見やバックグラウンドを持つ人々と互いに受け入れ合い、違いを尊重できる場を作るべく、日々奮闘しています。これからも、私自身が日本とASEAN加盟国の架け橋となり、グローバルな人材として活躍したいと思います。

民間企業勤務
大熊彩花



私は職場の研修の一環として、事業に参加しました。国籍や宗教の異なる外国参加青年と過ごした51日間は、多くの発見と国際的視野を私に与えてくれました。東南アジアにおける児童労働の実情や不十分な災害対策といった課題を知ったことで、将来は途上国への資金援助や教育支援に関わる部署で働きたいという目標を持つことができました。

今後は財務局職員としてのみならず、既参加青年としても本事業で得られた経験やネットワークを社会に還元していきたいと思います。

財務省中国財務局
池田恵里花



海外青年と腹を割って話せる関係を築くことでASEAN加盟国の本質を知ることができたと感じます。国々の現状や文化、政治などを海外青年、“人”を通して学びました。この経験を更なる学びに繋げたいです。

伊東瑠香 # ミャンマー # 絆





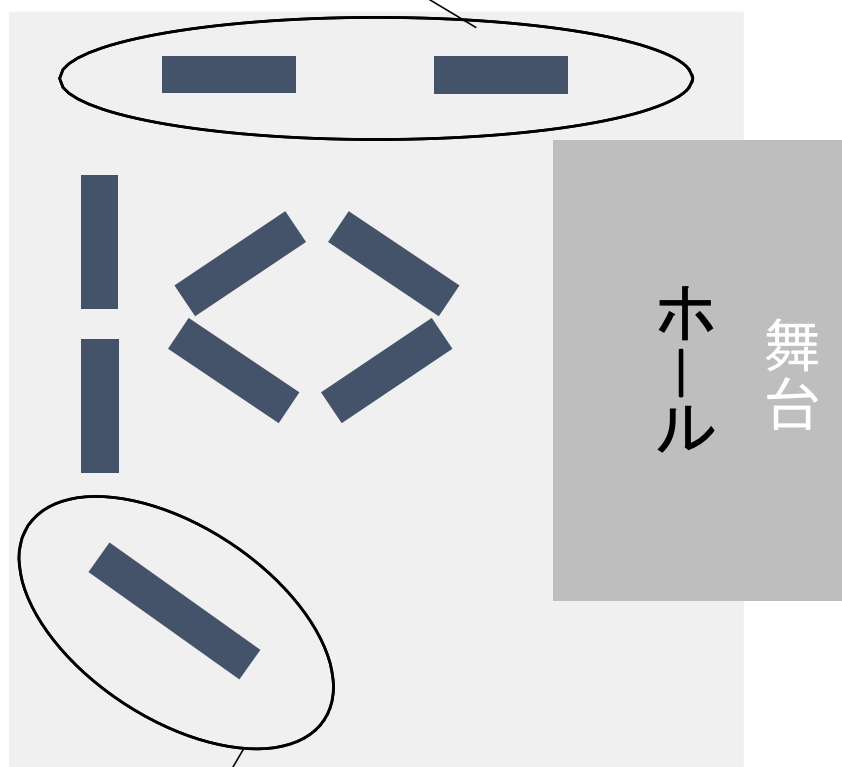
時間	内容	詳細
13:00-13:15	オープニング	
13:15-13:25	事業紹介動画	51 日間の出来事をまとめた動画をご覧ください。
13:25-13:40	事業概要説明（プレゼン）	参加青年から SSEAYP とは何かについて説明します。
13:40-13:55	事後活動紹介	第 46 回参加青年が取り組んでいる事後活動について紹介します。
13:55-14:05	内閣府青年国際交流事業募集説明	内閣府から説明があります。
14:05-14:20	休憩	
14:20-15:10	パネルディスカッション	参加青年が本事業に参加した理由、事業を通して得たものや自分自身の成長や発見、未来についてお話しします。
15:10-16:10	展示ブース・相談会	船内生活や事後活動に関する展示を見たり、参加青年と直接話をすることができます。選考や事業での体験などについて、皆さんからの質問にお答えします。
16:10-16:20	クロージング	

会場フロアマップ

相談ブース

展示スペース

- ・ PYの船内での1日
- ・ ディスカッション活動紹介
- ・ 訪問国活動紹介
- ・ 事後活動紹介
- ・ 名刺・自己紹介冊子展示



内閣府ブース



テーマ

「Future 世界を見た。自分を知った。私たちの創る未来が見えた。」
に沿って、生の声をお届けします。
本事業に少しでも興味を持っていただければ幸いです。

パネルディスカッション

丸川真由子
新潟大学
人文学部人文学科2年



地方から始まった国際交流を
もっと多くの人に伝えたい。
その心の変化をお話しします。



磯野広大
財務省東京税関

関心のなかった東南アジアが
大好きな国々に。
そうなった心の動きをお話し
します。

本間太郎
東京外国語大学
国際社会学部
東南アジア第一地域
インドネシア語専攻3年



自分だったらどうだろう、
外部の問題を自分事化して
考えるようになった原体験
についてお話しします。

進行役（モデレーター）
市原千裕
法政大学
経済学部国際経済学科3年



スピーカーのみなさんの心の動きを引き出し、
本事業の魅力が伝わるパネルディスカッション
にいたします。



野崎翔太
鹿児島大学
法文学部人文学科4年

鹿児島から日本のローカルを背負って
東南アジアへ、その経験から見えた
未来についてお話しします。

インドネシアにルーツのある私
の“いままで”、そしてSSEAYP
をきっかけに変わった
“これから”についてお話しします。



林綾子
個人事業主

私たちの創る未来が見えた。



世界を見た。

自分を知った。

Future

ー参加青年として日本を代表し、国を表現し、伝え、
そして私たちの未来について語り合うー

このような経験は、46年という歴史の中で
多くの人々が東南アジア青年の船事業を支え、
作り上げてきてくださったからこそそのものです。

約2カ月間にわたる船旅には、
数えきれないほどの心が震えた瞬間がありました。
多くの学び、人とのつながりを得ました。
そして今、わたしたちが未来の担い手であると確信しています。

次はあなたが、
国を超え旅をするこの船の、
そしてより良いfutureを共に作る仲間の、
一員となることを願います。

どこの国にも属さない船という世界だからこそ
見える景色があります。
あなたの心からのそのつよい思い、
海を越えて誰かに必ず届くはずです。



ユースリーダー 三木格

アシスタントユースリーダー 小竹愛

